

蒲生干潟の植物③③

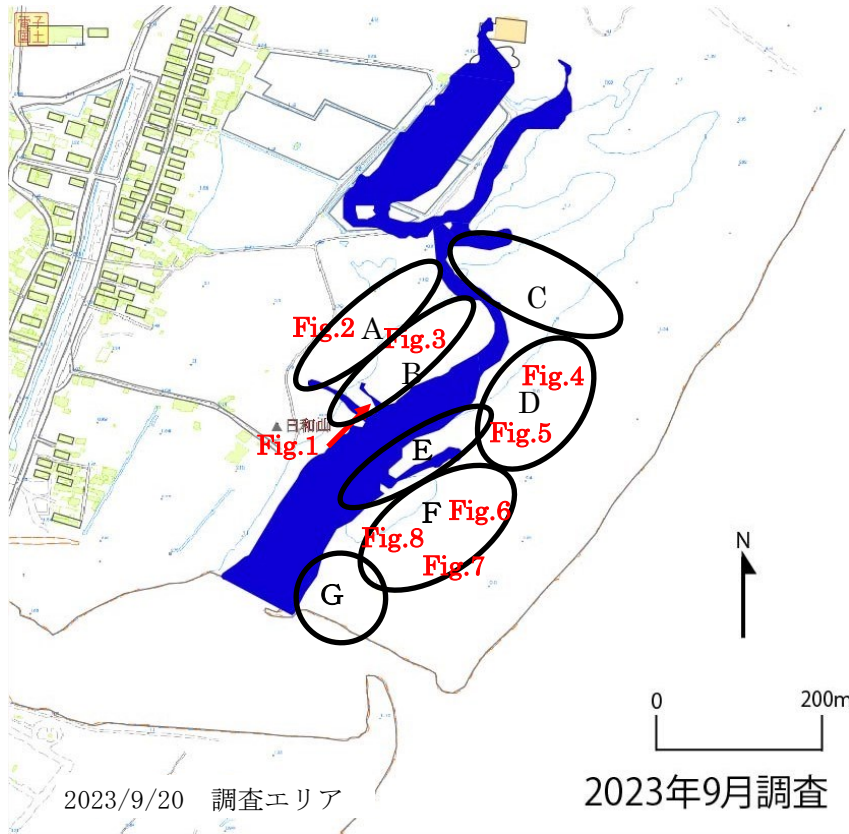


Fig.1 エリアBを南西側から撮影



Fig.2 エリアAで撮影



Fig.3 エリアBで撮影



Fig.4 エリアDで撮影



Fig.5 エリアDで撮影



Fig.6 エリアFで撮影

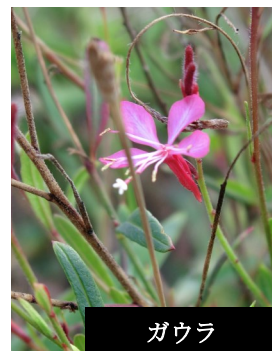


Fig.7 エリアFで撮影



Fig.8 エリアFで撮影

調査日時：2023年9月20日（金）10:00～11:30，天気：くもり

満潮後で水が多い状態であった。定点観測では、ハママツナの色が少しくすんで見えた (Fig.1)。エリアAのヨシは、伸長せず穂ができてはじめていた。今年の夏が酷暑であったためか分からないが、まだ穂ができていなかったり、穂の色が赤くなっていなかったりと様々であった (Fig.2)。エリアBのハママツナは、先月から伸長せず色が少し黄色くくすんだ色になっていた (Fig.3)。エリアDに点在するケカモノハシの群落では、穂が毛羽立ってきていた (Fig.4)。また、ハマニガナの花は、先月よりもさらに多く確認できた (Fig.5)。エリアFでは、センニンソウの花が数株見られた。つる性の植物であるが、周辺に背丈のあるものがなかったため、地を這うように生育していた (Fig.6)。また、近くには、ガウラも見られた。一昨年は確認していたが、昨年は確認できていなかった。数は少ないため、来年また様子を確認したい (Fig.7)。エリアFのハマボウフウは、花序がなく葉だけになり、葉は大きくなっていった。周辺に種子が落ちているのが確認できた。多年草のため、冬越しのための準備と思われる (Fig.8)。

(宮崎佳彦)